

ばってん

事務長会報第57号

令和7年3月31日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎北高等学校内

〒851-1132

長崎市小江原1-1-1

電話 (095) 844-4411

全国大会を終えて

島原高等学校 丸亀 秀夫 (副会長)

令和6年度の長崎県公立学校事務長会の忘れられない出来事と言えば、年度の締めとしてこのことに触れないわけにはいかないと思います。

長崎の取り組む100年に一度の大改革といわれ、長崎駅前の再開発から西九州新幹線の開通、そして出島メッセ、長崎スタジアムシティのオープンなどにより、長崎にとって記念すべき年となった今年度に、長崎県公立学校事務長会もおそらく開設以来初めてとなる全国公立学校事務長会長崎大会を、オープンして間もない出島メッセで開催し、全国の事務長さん方をお招きしての2日間は、私たちにとって忘れられない出来事であったと思います。

開会式の小杉全国会長の挨拶から始まり、文科省講話から研究協議会の盛り上がりへとその熱気のままその夜の教育懇談会へと移っていき、アトラクションの籠町の龍踊りのご披露（これは長崎県民としてもなかなか間近で見ることができるものではなく、改めて長崎人の血が騒いだひと時でした。）また、各県から持ち寄っていただきました銘酒の数々と本県の酒の肴に舌鼓を打ちつつ全国の皆様と懇談できたことは値千金であったと思います。

2日目は総会、本部報告、そして能登半島地震への寄付の石川県からのお礼とレポートは様々な災害が増えている日本の今後の、学校としての備えを改めて考えさせられました。その後、長崎県の新たな取り組みとしてハラスメント研究委員会の発表、協議も盛り上がりしました。

午後からは、長崎県出身の（株）ジャパネットたかた創始者である高田明氏の笑いを交えながらの機知に富んだ講演では、独特の話術で通信販売業を本県で成功させ全国に名を轟かせる方でありながら、その気さくな人と成りを垣間見させていただくことができました。

本当に暑い夏でありながらその熱気を全国の事務長さん方にもお伝えすることができ、また満足し得るものを多く提供できたことは、大成功であったといえると思います。これもひとえに早田会長さんや富田副会長さん、安田事務局長さんをはじめ、長崎県の会員の皆様のご協力とおもてなしの心が一つになったことの賜物によるものだと思います。本当にお疲れ様でした。

思えば、私が新任事務長だった前回の公立学校事務長会九州協議会長崎大会の開催を前に当時の先輩事務長さん方

から指示を受け参加者一覧や名札を準備し一人一役で大会を成功させようと努力していたことを思い出しつつその時先輩方から、数年後には全国大会の開催順が回ってくことを知らされ、そんな大ごとができるのだろうか、そのころ自分はどこでどうしているのだろうか、と全く予想もつかない状況でした。そんな中で、長崎県の事務長さん方が一つとなり九州大会を成功させたことが今回の全国大会の成功につながっているのだと感じました。

今回この全国大会にかかわらせていただく機会を与えてくださいました事務長仲間の皆様に感謝申し上げます。

一つの大きなイベントやプロジェクトを実行していく中で、さまざまな困難に立ち向かい時にぶつかり合いながらもその困難を乗り越えていくことにより、成功に導く経験は、とても得難いものがあると思います。日頃の業務の校内で起こる些細で様々な問題事の解決にも事務室の仲間の協力なしではできないことだと痛感します。お互いの不足している部分を補いながら協力して実行していくことの大切さを改めて実感させていただきました。

今年の6月には公立学校事務職員協会九州協議会が長崎ブリックホールで開催される予定です。多くの事務職員の皆さんがこのイベントに参加し、仲間で作り上げる成功体験を共有してほしいと願っています。

最後に、とりとめのない文章となってしまう申し訳ありません。様々な事務処理が変化していく中で、過去から未来へ受け継がれていく仲間とのつながりの大切さはこれからも変わらないものであってほしいと願いつつ、物事を協力して実行していくことの大切さを日頃の業務での問題解決に生かしていくことができれば幸いです。（写真は歴史ある島原高校の校舎風景です。）



これまでの数多くの出会いに感謝!!

西陵高等学校 中村 宏平

令和7年3月の役職定年により、西陵高校の事務長を退任することとなりました。2年の定年延長などがありますが、おかげさまで大きな節目を迎えることができました。これまでの38年間を振り返りますと、各職場を通じて本当に数多くの方々に大変お世話になったなあとつくづく実感し、感謝をしております。

本校は、遠く大村湾を望む上野丘陵の絶景の地にあります。さわやかなあいさつが自然とできる文武両道の清々しい生徒たちは、毎年、九州・全国大会において活躍を見せています。区切りとなる年度に、このような生徒に囲まれた活気にあふれる学校で勤務させていただき、とても幸せ者だと思います。

昭和62年度の口加高校への新規採用後は、事務長として鶴南特支、虹の原特支、西陵高校で学校現場の良さを実感する日々を過ごしました。その間、教育庁各課や出向先の農林部、教育事務所、教育センターといった様々な場所を経験させていただきました。中でも特に記憶に残っているのは、農林部諫早湾干拓室と五島教育事務所です。

最近の最高裁での統一判断が出るまでの間、排水門の開閉で世間を騒がせていました。ギロチンと言われた潮受け堤防の潮止めの際には、現場で立ち会いました。諫干室では、出向者の身で全国からの苦情電話対応をはじめ、低平地の排水不良改善、干拓地での営農計画策定、環境モニタリング、一級河川本明川に係る河川協議、漁港区域等廃止、

市町境界決定など、各部局にまたがる難題山積の中で業務にあたりました。国・県・市町や漁協関係を含めた政治的なやり取りなど大変荷が重いものでしたが、県政の懸案事業に携わることができて、とても貴重な体験となりました。

五島教育事務所では、永年の歴史に幕を下ろす閉所式にかかりました。当時の教育事務所は存在感を背景に、義務教育の世界で大きな影響力を持っていました。小中学校との直接的な接点なかった当時の私にとっては、新鮮な感覚で業務にあたっていたことを覚えています。特に先生方も交えた飲み会は強烈な印象で、美味しい料理とともに日本酒のコップ酒が当たり前、他の教育事務所からも恐れられていました。私もこののち、血圧の薬のお世話になることとなります。

いろいろな思い出話は尽きませんが、これまでの数多くの方々との出会いが私にとって得難い大切な財産となっています。周りの皆様に感謝をしながら、今後とも学校に役立つようなことができればと思っております。いろいろとありがとうございました。大変お世話になりました。



雑 感

諫早農業高等学校 佐藤 裕

平成3年の上五島高校を振り出しに、このたび9所属33年間の勤務にいったん区切りをつけることとなります。

思い起こせば、就職二次試験の面接での「就職したら何をしたい」との問いに、「土日は仕事のこともなんか忘れて、思い切り遊びます。」と今なら冷や汗をかくような答えをしたのですが、面接官が面白い奴だと思ってくれたのか合格できました。実際にそのとおり土日は趣味に没頭した生活をしながら、長い間食べていくことができてありがたい限りでした。

ただ、若いころは給与旅費収入など、100%を求められる分掌を任されることが多く、実はやる気が全く出ませんでした。間違えることが許されず、物を壊した生徒や校納金を滞納する保護者しか覚えのないのでは、仕方なかったかも知れません。しかし、施設設備などを任されるようになってからは、通り一遍で済ませず工夫すれば生徒がもっと喜んでくれることに

遣り甲斐を感じて、少しだけやる気が出てきました。

そんな時、ある校長との出会いがありました。校長室に何百人もの全校生徒の写真を貼り全員覚えて、皆に話しかけ、保護者や地域住民には積極的に接触し、部活の試合には全て足を運ぶ。ど真ん中のストレートを全力投球し続けるような校長でした。足元にも及びませんが、少しだけ参考にして生徒に関わりながら取り組んでいると、だんだん仕事が面白くなってきました。最初からそうした遣り甲斐を感じて取り組んでいたなら、もっとまともな職員になれていたかも知れません。雑務に追われ多忙感ばかりが増大している事務室のスタッフや、これからこの職業に就く人たちに、このようなことが伝わったら良いなと思いながら役職定年を迎えます。

最後に「繋がりあい高めあう」こともろくにせず、申し訳ありませんでした。



GO TO 五島

五島海陽高等学校 石橋 倫子

苓崎市から長崎市の自宅へ何とか戻れたものの勤務先は大村市で4年間通い続け、内示を受けた先は五島市でした。

五島海陽高校は昭和51年五島商業高校として開校し、平成17年4月総合学科を設置し、校名を五島海陽高校と改めました。令和7年度は五島商業高校開校50周年、五島海陽高校創立20周年となります。今年度は次年度の記念事業に向けて準備を進めているところです。

幸いにも事務室職員が明るく笑いの絶えない（そして仕

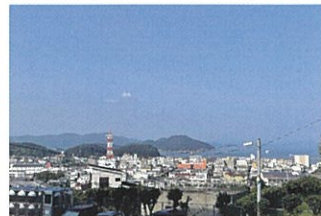
事もできる) 素晴らしい顔ぶれに、あなたたちのお陰で「悩みがないのが悩み」と言いながら今日まで勤務させていただいています。

私の好きな言葉のひとつに「協働」があります。この夏「福江みなとまつり」に使う「ねぶた」の修理をしました。五島でねぶたを使ったお祭りがあることを全く知らず、赴任早々校長からねぶたの修理をお願いしますと依頼されました。昨年雨の中祭りで使用された破れかぶれのねぶたを猛暑の中事務職員と教員で力を合わせ和紙を貼ったり色を塗ったりして見事に修復し、夜の街にあたたかい光を放ち生徒たちのかけ声と共に曳いて歩くねぶたは最高でした。

また、文化祭では校長や若手職員とガールズバンドを結

成し夏から練習を重ねた曲を披露してステージは爆盛り上がりしその一助となったことに感動しました。

新任事務長として微力ではありますが、生徒や教員・事務職員が五島海陽高校に来てよかったと思える学校づくりに取り組んでいきたいと思います。五島最高です。(壱岐島も大好きです。)



念願の北海道ツーリング

諫早高等学校 川端 利行

23年ぶりの車通勤。音楽をかけて、一人カラオケや〜と歌いつつ、「ちょっと今うまく歌えたんじゃな〜い」と気持ち悪くほくそ笑みながらハンドルを握って通っております。学校勤務は新しい発見ばかりで、こんなことも俺は知らんのか〜と情けない自分を痛感しつつ、事務室の優しい皆さんに助けられながらなんとか日々過ごしております。みんな〜、アリガト〜(泣)

さて、私は数年前からバイクで北海道を走るという目標を立てており、異動後すぐに事務室で「バイクで北海道旅行をやりたいので7月にリフレッシュ休暇を取らせてください。お願いします。」と懇願。皆さん、快く私のわがままを聞いてくれました。「生きて帰って来いよ〜」の言葉を胸に途中東京で遊びながら、7月22日〜24日の3日間で北海道へ。レンタルバイク屋でKAWASAKI W800に対面。乗ってみたかったバイクに感動しつつ、3日間頼むぞ〜と念じて出

発。新千歳から北を目指し留萌へ。留萌〜苫前〜羽幌〜遠別〜天塩と左真横に広大な海を見ながらオロロンラインを爆走し、稚内へ到着。市役所の時間外窓口で最北端到達証明書をゲット。翌早朝、宗谷岬へ。最北端自販機で缶コーヒーを買い、最北端GSで給油し記念の証明書とお守りをもらう。宗谷岬をあとに、南へ縦断。最悪の雨。熊におびえながら暗い山中を走る。走っても走っても目的地の帯広が見えてこない。つらく無謀な計画であったことを後悔。ホテルに着いたのは20時前。北海道エスコンのオールスター戦を帯広の寿司屋で観戦。球場で見たかったなあ。翌日、日高からまた大雨。雨と標高1000m級の山の寒さに震えながら新千歳にぎりぎり到着。旅の3分の2は雨で、とにかく走るだけの旅でしたが、達成感は最高〜。皆様のおかげで念願を達成できました。感謝。新たな目標を胸に、日々懸命に生きることを誓って、仕事頑張ります。皆様、これからよろしくお祈りします。



全国事務長会長崎大会を終えて

長崎北高等学校 早田 正博

令和6年の夏は、私にとってとても熱く思い出に残る夏となりました。「第48回全国公立学校事務長会研究協議会並びに総会長崎大会」が終了して早くも2か月半が過ぎましたが、終わった直後は「全国大会ロス」に陥るほど、大会直前から期間中、緊張と集中の連続で毎日进行していたことを記憶しています。全国大会の全日程終了後に同日開催した九州大会長崎大会も無事に終わり、他県からの参加者を見送った後に、本県の事務長さん方へ「お疲れ様でした。ありがとうございました。」の意味のようなことを短く述べたと思いますが、正直何を語ったか覚えておらず、ただ感動と緊張からの解放のためか涙が出そうになったことだけははっきりと覚えています。

あの日から2か月半経った今何を思うか。

全国事務長会では毎年東京大会と地方大会を交互に行っており、傘下の各県市に開催地が巡ってくるのはおおよそ百年に一度の計算になりますが、このわずかな隙間に何の因果か会長として携わることになり、就任当初は重責やプレッシャーを感じる一方で、元来持ち合わせている「何とかなるさ」の

適当さで精神のバランスを保っていたような気がします。そんな私を、全国本部との様々な折衝や会場確保、人員配置、関係各所との連絡調整など、大会開催にあたり複雑多岐に渡る業務を中心に担っていただいた安田事務局長をはじめ役員の皆さんには大きな力で支えていただきました。そしてその先では、長崎県事務長会すべての会員が一丸となって力を結集し本番に備え、当日はおもてなしの心をもって全国各地からの参加者を迎え入れて接していただいたおかげで、大会の成功に辿り着くことができたと思っています。まさに「つながり合い、高め合う事務長会」の姿がそこにはありました。到底言い尽くすことはできませんが、長崎大会に関わったすべての人に心より感謝申し上げます。

また、私自身にとりまして、今回このような立場と役割を与えていただいたおかげで九州各県をはじめ全国各地の事務長さんとなることができました。この財産を大切にしてお礼として本県事務長会が他県と連携を図る一助になればと考えています。

最後に、この長崎大会の経験をひとつの契機として、長崎県公立学校事務長会の仲間同士の絆が更に深まり、次に続く世代の事務長会がもっともっと活発に活動し、飛躍・発展することをお祈りいたします。

節目の年に思うこと

体育保健課長 松山 度良

事務長会の会誌「ばってん」の原稿依頼を受け、その時は、原稿締切が半年先でもあることもあり軽く引き受けてしまったものの、文才の無さもさることながら、某特別支援学校の〇園事務局長さんの許しもないまま、県立学校での勤務経験もない私のような者が果たして書いて良いものかと今になって逡巡しています。事務長の皆さん、最後までお付き合いいただければと思います。

昭和 100 年の節目

令和 6 年（2024 年）も残すところ数時間、締切を大きく過ぎてしまっていることに反省しつつ文案を考えていると、テレビの向こうでは、松田聖子や中森明菜、小泉今日子などといった昭和時代を飾ったアーティストの曲。自分の青春時代の思い出とも重なり、流行当時を映し出す懐かしい画像に釘付けとなっていました。

近年、Z 世代の若者たちを中心に昭和歌謡、カセットテープ、アナログレコード、コンプライアンスお構いなしのテレビ番組等々「昭和レトロブーム」が巻き起こりました。令和の若者が昭和に惹かれる理由には、概ね 4 つの魅力に分類されると言われています。まず、第一の魅力は、「昭和商品のデザインの面白さ」、第二の魅力は、「アナログの心地よさ」、第三の魅力が、「ノスタルジー」、最後に「自由さ」となっています。昭和に生まれ育った私たちが過ぎた時代を懐かしく思う一方で、先行き不透明な時代を生きる Z 世代の若者たちには、明確な目標があった昭和の次代を「古くて新鮮」と感じて、心惹かれているのかもしれませんが。

今年 2025 年は、その昭和元年から数えて 100 年目という節目に当たります。激動と復興の時代と言われる昭和は、62 年間で 2 週間の期間で成り立っていますが、昭和元年（1926 年）12 月 25 日から昭和 64 年（1989 年）1 月 7 日までで、偶然にも同じ 7 日間で終わっていることを皆さんご承知でしょうか？

また、世界中で話題になったコンピューターにおける 2000 年問題と同様のことが、この 2025 年も「昭和 100 年問題」として突然問題が発生する恐れがある年とも言われています。

転換期を迎えて

近年、学校においては、東日本大震災後の校舎等の耐震

化や地球温暖化対策、新型コロナウイルス感染症への対応など、これまでの歴史の中では考えられなかった対応を余儀なくされた期間でもありました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大を機に様々な生活様式が大きく変化し、また、AI の急速な進歩や持続可能な SDGs の推進など、社会の変化が急速に進み、将来の予測がますます困難な時代を迎えています。

このような時代が到来し、学校においては、これからの時代の持続可能な社会の創り手・担い手として活躍できる子どもたちを育てていくための教育環境をどのように構築していくのか、非常に大事な転換期を迎えており、教職員の働き方をはじめ、取り巻く環境の改善・整備を進め、次代を担う子どもたちへの教育環境の充実を図ることによって、「持続可能な学校」「持続可能な教育」を実現していくのが極めて重要なミッションとなっているように感じています。

学校を取り巻く環境は、年々複雑かつ多様化しており、学校に対する期待や、役割がさらに拡大しています。明確な目標を持った昭和の時代と違い、先行き不透明な時代だからこそ、私たちには、教育における時代を超えて変わらない価値のあるもの「不易」と「流行」を十分に見極める力を身に付け、子どもたちの教育を進めていくことが求められていると思います。

節目の年に思う

私は、平成 4 年 4 月、南島原市内にあった小学校（閉校しています）を振り出しに事務職員生活をスタートさせました。これまで小学校 2 年間、中学校 4 年間、教育行政 27 年間の計 33 年間、学校事務職員として勤務してきました。

採用当時は、パソコンもなく手書きか、自前のワープロで事務処理を行っていましたが、この間一人一台のパソコンが整備され、用紙も A5 版から A4 版へ、郵送からメールへ、出張からオンラインの会議へと、職場環境も大きく変化しました。

今年、還暦を迎えます。蛇年である私自身にとっても節目となる今年は、脱皮を繰り返し成長と飛躍とまではいきませんが、ふるさと長崎を愛し、これからの社会をたくましく生きていく子どもたちのために、今一度初心に戻り、自分ができることを一生懸命頑張りたいと考えています。

編集後記

「ばってん」の 57 号を発行するにあたり、原稿を寄せてくださった皆様に心より御礼申し上げます。

早いもので今年度初めて事務長を拝命し、1 年が過ぎようとしています。

最近ふと気づいたことといえば、学校でお借りしている畑や校内の果樹に目白がたくさん飛来しているということ。鳥に興味があったわけではありませんが、

鳴き声や寄り添っている仕草にとっても癒されています。

さて、この 1 年を振り返ると、何はさておき全国事務長会が本県で開催されたこと。

開催に向けた会議や準備、その他もろもろ、まさに「目白押し」の 1 年ではなかったでしょうか？

皆様、本当にお疲れさまでした（・∀・）♪

H・F